

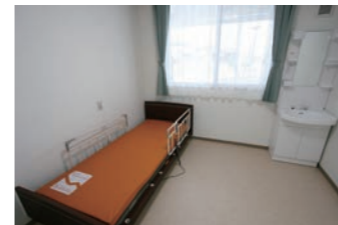
美浜町福祉支援センター「あいばる」完成



町の障がい福祉サービス向上のため整備を進めてきた、美浜町福祉支援センター「あいばる」が6月末に完成し、8月1日に開館します。

本施設は、発達障害の子どもや気がかりな子どもへの発達支援、また、障がいのある人への生活支援を行う町の障がい福祉サービスの拠点として整備したものです。

今月号では、「あいばる」の概要についてお知らせします。



↑ 宿泊スペース



↑ 寝たまま入れる浴槽



↑ 遊戯室

町の障がい福祉サービスの現状

発達障害(※1)のある子どもは、早期から発達段階に応じた、一貫した支援を行っていくことが重要であり、早期発見、早期支援の対応の必要性が極めて高いと言われております。また、障がいのある人(身体障害者手帳や療育手帳、精神障害者保険福祉手帳を持つている方等)が生活支援や介護サービスを日常的に受けることで、家族等の負担を大きく軽減することができまます。

本町には、発達障害の子どもや気がかりな子ども(※2)を支援する施設、また、重い障がいのある人を支援するための設備が整った施設がなく、これまで近隣市町の専門施設でサービスを受ける必要がありました。そのため、利用にあたっては、日常的に遠距離の送迎を要し、家族等にとって大きな負担が強いられる状況でした。

福祉支援センターの整備にあたって

町では、このような現状を踏まえ、障がいのある人やその家族を支援するため、利用者の負担軽減と一貫したサービス提供が可能な施設の整備の検討を進めてきました。平成26年

6月には、福祉支援センター建設検討委員会を立ち上げ、さまざまな意見をもとに必要となる部屋や設備、サービス内容等を検討しました。

利用者への支援内容

「あいばる」では、利用者に応じた発達支援として、施設職員による保育園等への訪問をはじめ、放課後等のデイサービス、気がかりな子を持つ家族への相談支援等を行います。また、障がいのある人への生活支援では、生活介護や日中の一時支援、短期入所を行うための宿泊スペースや寝たまま入浴できる浴槽等を備えています。

なお、当施設は、公の施設の管理や運営を民間の事業者や団体に委託する指定管理者制度により、「特定非営利活動法人ヤングオールドほのぼの家族いまい」が行います。

(※1)発達障害

自閉症、アスペルガー症候群その他の広汎性発達障害等、通常低年齢において発現する脳機能の障がい。

(※2)気がかりな子ども

人との会話ややりとりが苦手、落ち着かない等、集団行動が上手いかず、支援が必要な子ども。

心のよごしを減らしてほしい

な

念願だった福祉支援センター「あいばる」が完成しとても嬉しく思います。今までは町外の施設へ通うしかなかった発達支援サービスや療育が美浜町で受けられるようになります。物事に対し興味を示す幼少からの早期療育、支援はその子にとっても親にとってもとても大切なことだと思っています。また、短期入所を経験することで、施設や職員にも慣れ、もしもの際に備えられると将来の不安も少なくなることでしよう。今後は福祉の拠点として、また気軽に相談できる場として、本人だけでなく家族にとっても心のよりどころとなる施設になることを期待しています。



心身障がい児(者)と親の会「杉の子会」

会長 中村 久美子 さん

一人ひとりに合った支援をしていきます

支

あいばるの指定管理者として、生活介護をはじめ、生活訓練や放課後等のデイサービス、児童の発達支援等を行います。

業務にあたっては、利用者の様子をしっかり見ながら、一人ひとりに合ったサービスを提供することを心がけていきます。

「あいばる」は、利用者の介護状態や用途に応じた部屋、設備が整っているほか、安全面にも配慮が行き届いており、利用者や事業者どちらにとっても利用しやすい施設です。

これから、家族の方や地域の方等、皆様のご協力をいただきながら、安心して利用できる施設を作り上げていきます。



「あいばる」指定管理者

特定非営利活動法人ヤングオールドほのぼの家族いまい 代表理事 常田 幸一 さん

サービス利用までの流れ



サービス利用者

- ①事前相談、利用申し込み
- ②障害支援区分の認定
- ③「サービス等利用計画案」を提出
- ④支給決定

町福祉課



- ①事前に町福祉課にご相談いただいた後、利用を申し込みます。
- ②町より障害支援区分(※)の認定を受けます。
- ③町福祉課が紹介する、指定特定相談支援事業者と利用者で作成する「サービス等利用計画案」を提出します。
- ④「サービス等利用計画案」や勘案すべき事項を踏まえ、サービスの支給を決定します。支給決定されたときから、施設の利用が可能になります。

※障害支援区分

障がいの特性や心身の状態に応じて必要とされる標準的な支援の度合いを判断する区分で、適切なサービスが利用できるように導入しています。

町が実施する次の認定調査の結果と医師の意見等を審査会において総合的に勘案した判定を踏まえて、町が認定します。

【認定調査項目】

- ①移動や動作等に関する項目(12項目)
- ②身の回りの世話や日常生活等に関する項目(16項目)
- ③意思疎通等に関する項目(6項目)
- ④行動障害に関する項目(34項目)
- ⑤特別な医療に関する項目(12項目)

■ お問い合わせ先 町福祉課(担当・木谷) ☎ 32-6704

シリーズ「三方五湖・自然再生の取り組み」③

久々子湖のシジミ資源回復に向けて

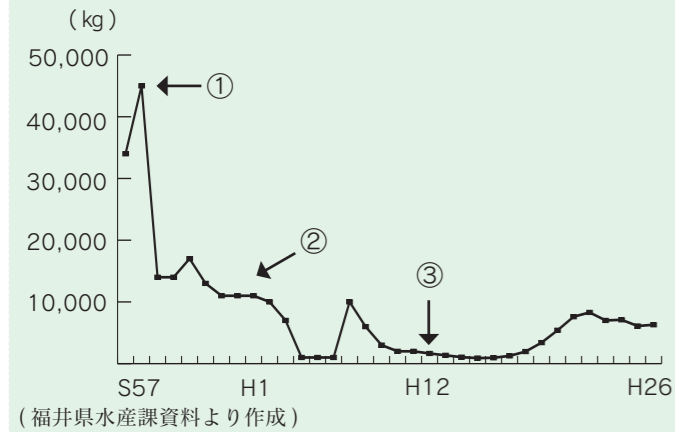
先月号では、三方五湖の水質の現状や、その改善に向けた三方五湖自然再生協議会「シジミのなぎさ部会」の取り組みについてお知らせしました。

今月号では、久々子湖に生息するシジミに焦点を当て、シジミの漁獲量を増やすための様々な取り組みについてお知らせします。



美浜の環境 シリーズ 82 environment

■三方五湖のシジミの漁獲量



淡水と海水が混合する汽水湖の久々子湖には、「ヤマトシジミ」が生息しています。久々子湖のシジミは、塩分濃度が生育に適していることから味も良く、地元の朝市等で多くの人気を呼んでいます。

三方五湖におけるシジミの漁獲量は、ピーク時の昭和57年には約45トン①、その後平成に入るまで約10〜17トン②ありましたが、平成12

漁獲量が減少する
久々子湖のシジミ



↑シジミの住処となる浅場の造成

このような状況を改善するため、南西郷漁業協同組合では、平成18年からシジミの住処となる浅場約20,000㎡の造成、稚貝の放流、シジミの漁獲制限等の対策を講じました。こうした同組合の継続的な取り組みにより、漁獲量は少しずつ増加し、最近では6トン前後にまで回復しました。

少しずつ回復してきたシジミ資源ですが、町では、更なる回復に向けて

シジミ資源の回復に向けた取り組み

年には約1トンレベル③にまで減少しました。減少した原因には、乱獲や環境の変化等が考えられています。

※お問い合わせ先
町住民環境課(担当・上野)

☎32-6703



↑シジミの成員(左)と稚貝(右)

新たな対策を検討するため、これまで詳しい知見の無かった久々子湖の環境について分析することとしました。

具体的には、平成25年度から、三方五湖自然再生協議会の「シジミのなぎさ部会」が、福井県立大学の協力を得て、久々子湖全体の環境とシジミの分布について調査を始めました。

今後は、調査結果をもとに、シジミ資源の回復に効果的な対策を講じていきます。

今回は、福井県立大学との調査研究で分かってきたことについてお知らせします。

都会から来たまちづくりの新しい仲間 地域おこし協力隊委嘱式

お問い合わせ先
町企画政策課(担当・宇都宮)
☎32-6701



↑地域おこし協力隊に委嘱された上田桂士さん(写真左)、神田英利子さん(写真右)

6月30日に、地域おこし協力隊の委嘱式が、町役場で行われました。

地域おこし協力隊とは、自治体が都市部の人を隊員として一定期間受け入れ、地域おこしの支援や、住民の生活支援等の地域協力活動に従事してもらい、定住・定着を図る取り組みのことです。

今回委嘱したのは、上田桂士さん(大阪府から転入)と、神田英利子さん(神奈川県から転入)の2人。上田さんは、体験型観光専門員として、



←協力隊員に「へし子ちゃんバッジ」を付ける山口町長

て、神田さんは、健康づくり専門員として活動します。

委嘱式では、山口町長が委嘱状を手渡し、「地方創生が叫ばれる中、人口減少を食い止めるため、2人の若い力を美浜町のために発揮してほしい」と激励しました。

上田さんは、「高校時代のボートの経験を活かし、体験型観光に取り組みたい」、神田さんは、「野菜や魚が身近にある美浜で、町民の方々の健康づくりのお手伝いができる」と抱負を述べました。

町公認アンテナショップ型居酒屋 「熟成魚場 福井県美浜町」が6月29日にオープン

お問い合わせ先
町農林水産課(担当・丸木)
☎32-6706



↑開店に先がけた記念レセプションで挨拶する山口町長



↑開店初日は、昼の部、夜の部ともに満席になる程の盛況ぶりでした

6月29日に、「熟成魚場 福井県美浜町」が東京日本橋に開店しました。

同店は、株式会社 function(ファンクション)が運営する、美浜町の農林水産物を使用した料理を提供する町公認のアンテナショップ型居酒屋です。町は、同社と相互に持続的な発展をすることを目的とした連携協力協定を締結しており、農林水産物の販路拡大や「美浜ブランド」の魅力向上のため、美浜産品を提供し

ています。(広報みはま7月号参照)

27日には、開店に先がけた記念レセプションを開催し、山口町長をはじめとする関係者約50人が、美浜の食材を使った料理を味わいながら、店の繁盛を祈願しました。

山口町長は、「美浜の海や山でとれた食材を全国の皆さんに振る舞っていただくと、町としても常に新鮮な食材を送るための努力をしていきたい」と挨拶しました。